

カーボンリサイクル実現へ向けて

—人材育成—

カーボンニュートラルの実現の技術基盤がカーボンリサイクル技術です。それを実現するには人と技術の多様性を活かした産業分野を横断した取り組みが不可欠です。同志社大学では深山大沢と良心教育にもとづく意識改革と人材育成、そして環境問題に対する人の思いや意思を具現化するために、文理融合で取り組んでまいりました。それは学内に留まらず、地域連携による人材育成と技術開発として取り組んでいます。カーボンリサイクルは同志社大学が大学の改革方針として掲げる中期計画 2030 に向けて強化する重点領域の一つであり、カーボンリサイクル教育研究プラットフォームが具体的に体现します。

1. 人材育成

同志社大学創立者の新島襄が目指した大学の理想像は「深山大沢（しんざんだいたく）」の一言が示します。深い山にある大きな沢のような、何が飛び出すか分からない未知なる世界です。深山大沢を現代の言葉で言い換えるなら、多様性と驚きに満ちたキャンパスです。深山大沢のキャンパスで、良心を指針に何を学ぶかを自分で考える自由を重んじた教育が同志社大学の伝統です。良心教育を通じ個性を育み、いつしか大魚や龍のごとく成長することを期待する同志社の教育は現在もかわることはありません。

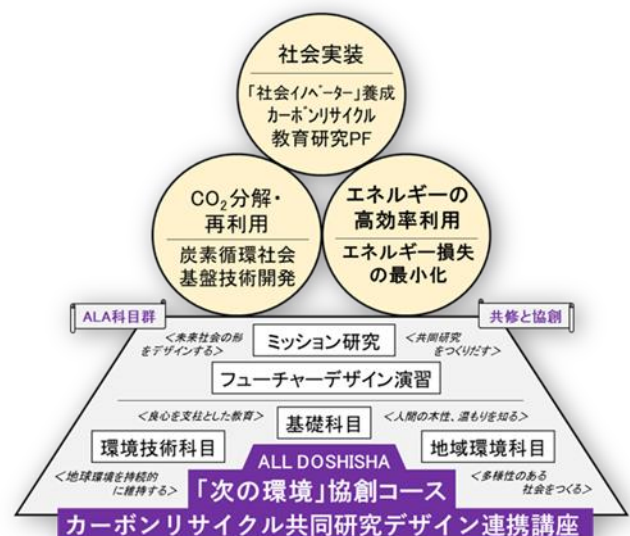
カーボンリサイクルすなわち CO₂ の資源化の社会実装のためには、その技術だけでなく、その技術を開発し人材の育成が必要です。同志社大学は技術開発だけに注力するだけでなく、その技術を社会実装で担う人材の育成にも取り組んでまいりました。2021年6月1日に同志社大学カーボンリサイクル教育研究プラットフォームを発足させました。この教育プラットフォームの最大の特徴は組織連携を基盤として教育研究活動を全学的に推進するスキームです。理工系教育だけでなく、人文社会学系の教育も含めたアドバンスト・リベラルアーツを基盤とするカーボンニュートラル性に取り組む人材の教育を推進します。さらに2022年6月1日に同志社大学カーボンリサイクル技術フォーラムを設置しました。技術フォーラムは学内外のCO₂対策コンソーシアムです。現在、産学連携によるシナジー効果により多様な人材の育成と企業のポテンシャルを引き出す技術開発を目指し、関西を中心に9社の企業の皆様と共にカーボンニュートラルに関する情報交換と技術開発を行っています。

そして同志社大学は2025年10月に「同志社大学中期計画 2030」を策定し、2026年度から本格実行に入りました。カーボンリサイクルと中期計画 2030 の関係は、社会課題解決型研究の象徴的プロジェクト、産官学連携強化の中核拠点、良心教育 × 環境イノベーションによる次世代人材育成に集約されます。カーボンリサイクルは同志社大学が大学の改革方針として2030年に向けて強化する重点領域の一つであり、カーボンリサイクル教育研究プラットフォームが具体的に体现します。

2. アドバンスト・リベラルアーツ教育

同志社大学のカーボンリサイクルに係る人材育成では、アドバンスト・リベラルアーツ教育を通じて人材育成を行います。同志社大学が目指すアドバンスト・リベラルアーツ教育は（1）俯瞰力：未来の社会の諸課題に対して、普遍的な見方から全体像を捉える能力、（2）総合力：複数の専門知を組み合わせながらアプローチできる能力、（3）創造力：未来の社会を読み解く視座、（4）提案力：良心を支柱に未来の社会のあり方を模索する能力、これら4つの力を育むことを目指します。諸課題に対して、本質を捉え新たな課題を探り、常に挑戦する姿勢の涵養を目的としています。

同志社大学高等研究教育院がアドバンスト・リベラルアーツ（ALA）科目群が大学院教育として提供します。ALAはグローバル・リソース・マネジメント（GRM）コース、「次の環境」協創コース、サイエンスコミュニケーションコースの3つから構成されます。「次の環境」協創コースでは、社会実装、CO₂分解・再利用、エネルギー効率の高効率利用を目指します。




＜報道関係の方からのお問い合わせ先＞

同志社大学カーボンリサイクル教育研究プラットフォーム

TEL : 0774-65-8256 MAIL : pf-carbon@mail.doshisha.ac.jp

3. 教育コース

人材育成もカーボンサイクルの社会実装も、産業分野と地域を横断する取り組みです。大学院学生と社会人との共修と協創の「次の環境」協創コースや海外オンサイト実習のプログラムの実施とともに、企業会員様のご要望に合わせた教育コースも開発しました。「次の環境」コースの他、海外オンサイト研修、技術経営（MOT）コース、さらに企業皆様との共同研究とタイアップしたミッション研究教育など、各コースを整備しました。下記の表はダイキン工業様と実施した教育コースを紹介します。

	「次の環境」協創コース	海外オンサイト	技術経営（MOT）コース
設置・提供	高等研究教育院に設置し、科目提供は同志社大学先端的教育研究拠点「次の環境」研究センターが担当	高等研究教育院に設置し、科目はグローバル・リソース・マネジメントより提供	コースは高等研究教育院に設置し、ビジネス研究科開講科目と学術指導契約に基づくゼミナールで構成
修了要件	必修科目（2単位）及び選択必修科目（6単位）の計8単位以上	必修科目（4単位）	必修ゼミナール、必修科目（4単位）及び選択科目（6単位）の計10単位以上
履修対象	ダイキン社員：10名程度（科目等履修生） 同志社大学 全大学院生	ダイキン社員：4名程度（科目等履修生） 同志社大学 全大学院生	ダイキン社員：10名程度（科目等履修生） ※ゼミナール：5名 同志社大学 ビジネス研究科生
運営体制	<p>「次の環境」研究センターに、同志社-ダイキン連携プロジェクト「次の環境」協創人材育成プログラム実施担当者部会（略称「人材育成部会」）を置き、その開発・実施を行う。</p> <p>部会長：後藤琢也 「次の環境」研究センター長・教授 委員：宿久 洋 高等研究教育院所長・教授 森 良弘 ビジネス研究科・教授 小島秀和 理工学研究科・教授 和田喜彦 経済学研究科・教授 石川正道 客員教授・外部有識者 他、ダイキン工業株式会社より3名の委員 事務局：高等研究教育院 事務局</p>		
	 <p><<MOTゼミナール風景>></p>		

4. カーボンサイクル実現へ向けて

同志社大学では産学連携による技術開発と人材育成に取り組んでまいりました。カーボンニュートラル実現の技術基盤がカーボンサイクル技術です。しかし技術開発だけでは実現しません。それを実現しようとする人材と技術の多様性を活かした産業分野を横断した取り組みが必要です。同志社大学は良心教育にもとづく意識改革と人材育成、そして環境問題に対する人の思いや意思を具現化するために、文理融合で取り組んでまいりました。学内に留まらず、地域連携による人材育成と技術開発として取り組んでいます。下記の URL で詳しい取組みを紹介しています。是非一度ご覧ください。

同志社大学の中長期計画 2030 同志社大学ビジョンアクションプラン

<https://vision-conscience.doshisha.ac.jp/mediumtermplan/>

同志社大学 高等研究教育院 アドバンスド・リベラルアーツ（ALA）科目群

<https://next.doshisha.ac.jp/next/program/advanced/outline.html>

「次の環境」コース

<https://shinzandaitaku.doshisha.ac.jp/>

5. イベントのお知らせ

茨城大学 CRERC シンポジウムに登壇します。

日時：2026年6月12日（金）14:00-17:00

場所：茨城大学 日立キャンパス E5 棟 及び Teams でのライブ配信（ハイブリッド開催）

[CRERC シンポジウム開催のご案内（6月12日）](#) | [CRERC カーボンサイクルエネルギー研究センター](#)

【基本情報】

所在地：〒610-0394 京都府京田辺市多々羅都谷 1-3

大学法人名：学校法人同志社 同志社大学

同志社大学担当組織：同志社大学カーボンサイクル教育研究プラットフォーム

事業実施統括・代表者：後藤琢也（副学長・リサーチ・イノベーション推進機構長）

URL：<https://crpf-doshisha.com/>

お問い合わせ先：同志社大学リサーチ・イノベーション推進機構 研究企画課カーボンサイクル教育研究プラットフォーム事務局

TEL：0774-65-8256 Mail：pf-carbon@mail.doshisha.ac.jp

<報道関係の方からのお問い合わせ先>

同志社大学カーボンサイクル教育研究プラットフォーム

TEL：0774-65-8256 MAIL：pf-carbon@mail.doshisha.ac.jp